

次なる100年の新たな歴史を

引き継がれるDNA、挑戦の起業家精神

日新電機グループは今年、創立100年を迎えます。創業から数えると107年になります。こうして1世紀を越えて事業を続けることができたのは、多くのお客様、株主様、パートナー様のご支援があったこと、そして奥深い産業集積を持ち、多くの大学が集まる京都という地で事業をしてきたことのお陰と感謝しています。

日新電機グループは、電気が普及し始めた明治の末に京都帝国大学で電気の研究をしていた富澤信が電気計器の国産化を志し、日新工業社を京都・東山に立ち上げた時(1910年)を「創業」としています。当社グループのルーツは今でいう大学発のベンチャー企業だったということです。その後、成長のための資金を広く集めるために株式会社化し、日新電機株式会社となりました。この時(1917年)を「創立」と呼びます。戦後は住友電気工業株式会社から電力用コンデンサの事業を譲り受け、その技術を自ら練磨して高度成長期の主力事業に育てる一方、海外からの技術も取り入れながら変圧器や遮断機、変成器などの開発を進め重電機メーカーとしての地歩を固めてきました。1970年代には電力機器事業で培った高電圧・真空技術をベースに米

国のハイボルテージエンジニアリング社と組んで電子線照射装置やイオン注入装置の事業を起こしました。一方、海外ではタイ、台湾、中国などで事業を展開してきました。2000年代初頭の第一次電力自由化に伴う重電不況では苦しいイストラも経験しましたが、労使一体となって乗り越えてきました。こうした100年を越える歴史が先輩たちのいくつもの決断と行動、そして時代の先を読んだ技術開発の積み重ねであったことを考えると誠に感慨深いものがあります。

そして今、私たちの足元には「電力のパラダイムシフト」「電気自動車の普及などモビリティの世界の電動化」などの大きな流れが沸き起こっています。こうした流れは、当社グループ創業の土壌となった電気の黎明期のダイナミズムよりもはるかに大きな変化であります。私たちは今、この大変化をチャンスとして活かし、次の100年に向けた新たな創業とでもいふべき事業成長を目指していこうと考えています。

当社グループでは、こうした事業成長のシナリオをVISION2020という中長期計画に取りまとめ、今年度からグループを挙げて取り組んでいます。



代表取締役社長

小畑英明



VISION2020では、足元のさまざまなダイナミズムと100年の歴史の中で磨いてきたコア技術を掛け合わせて「成長ドメイン（成長市場・分野）」を設定し、それら成長ドメインに先進的な技術や新製品を投入することで事業成長を創り出していくことにしています。このためには、全ての事業セグメントにおいて絶え間ない技術開発を進めていくことが必須です。

電力機器事業、新エネルギー・環境事業のセグメントでは、低炭素社会を目指す中で起きた東日本大震災と原発事故、そして再生エネルギーの急速な普及といった変化がさまざまなニーズを巻き起こしています。省電力・省エネ・CO₂削減のニーズ、多様なエネルギーをミックスしてエネルギーコストを最小化したかったとのニーズ、エネルギーを安定的かつ確実に確保したいとのニーズなどです。私たちはこうしたニーズに対して、電力機器を中心とした「ハードの技術」に、機器やエネルギーを制御する「ソフトの技術」を融合させお客様のさまざまなニーズにソリューションを提供する事業をSPSS（Smart Power Supply Systems）と名付けて展開していこうと考えています。SPSSは電力会社、民間会社、水処理施設、離島グリッドなど私たちが事業をさせていただいているあらゆる分野で展開可能な技術です。中国でも電力機器の智能化としてその流れが始まっておりグローバルに展開できる技術として期待しています。また、自動車のエネルギーが電気によっていく中で車載用電力機器のみならず電力インフラの新しい機器や電力系統安定化のニーズが出てくると考えています。加えて、環境に配慮した絶縁材料に対するニーズへの対応も必須です。

ビーム・真空応用事業のセグメントでは、半導体やFPD（Flat Panel Display）における技術革新に対応した製造装置の開発、電子線照射の応用範囲拡大に伴った装置の開発や表面コーティング技術のアプリケーションを広げていくための技術開発を進めていきます。

工事や点検・保守の事業セグメントでは、人材不足が深刻です。こうした中でこの事業を拡大していくには、予測診断技術や人に頼らない工事・点検・保守の工法やロボットの開発などをしていかなければなりません。

このような広範囲な開発を全て自前でやりぬくことは難しく、多くの企業、大学、研究機関との協業、即ち「外とのコラボレーション」を強化しながら技術開発を進めていこうと考えています。こうした外部と連携した技術開発の原動力となるものは、高い知的集積と産業集積を持つ京都という地の利であり、当社グループが100年の歴史の中で育んできた「ベンチャー魂」「異文化や異なった技術に対する寛容さと咀嚼力」「日に新たなりの事業精神」、そして「飽くことのない技術開発の伝統」であると考えています。

創立100年の節目に、歴史を振り返り、歴史を突き動かしてきたDNAや事業の精神、そして技術開発が歴史をどのように創り出してきたかを次代に語り継ぐことこそが今の私たちの責務であるとの思いで「日新電機技報 創立100周年記念号」をまとめました。歴史は過去を振り返るだけではなく、将来を創る力となった時に初めて意味あるものになります。私は、この「記念号」でまとめた当社グループの過去・現在の技術開発の流れをしっかりと頭に置きながら、新たな歴史を切り拓くための技術開発を着実に進めて行こうと決意を新たにしています。役員・社員も思いは一つであります。

ステークホルダの皆様にはこうした日新電機グループへの引き続きのご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。「日新電機技報 創立100周年記念号」刊行のご挨拶といたします。